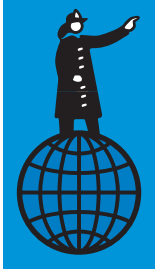
海外の消防



2021年 世界の大規模火災

海外消防情報センター

昨年に引き続き、2021年の最大の災害は新型コロナウイルス感染症によるパンデミックであると言わざるを得ない。ワクチン接種とあたかも競うように変異株が相次いで出現し、感染者数、死者数ともに激増し、世界全体の累計感染者数は、12月20日現在２億7,469万人を超え、死者は535万人を上回っている。国内においても、東京などの都市で、年初の１月８日から２月７日まで、そして、その後４月25日から９月30日まで緊急事態宣言を発出せざるを得ない状況に陥り、累計感染者は172万人、死者は１万8,379人を数えた。国内で最大の感染者数を出した第５波は、現時点では収まっているが、今冬の第６波への懸念は続いている。世界では、新型コロナウイルス感染者を受け入れている病院で大規模火災が発生するという痛ましい事故も発生した。

この原稿を書いているさなかに、台湾において過去30年で２番目に死者の多いビル火災が発生したという情報が入ってきた。

１　台湾高雄市で雑居ビル火災

2021年10月14日未明、台湾高雄市の住宅と商業施設が混在する雑居ビルで火災が発生し、死者46人、負傷者41人であった。消防車72台が出動し、火は約２時間で消し止められたが、多くの犠牲者を出した。

40年前に建てられたこの13階建てのビルは、１階から６階までは映画館や商業施設として利用されていたが、その後商圏が移動したため、商業施設は数年前に廃業し、現在、１階から６階まではほとんど使われておらず、廃墟化していたという。そのため、防火管理も疎かで、建物内には多くの物が積み上げられて、救助活動は困難を極めた。

７階以上の居住エリアには120世帯が住んでいたというが、入居者の多くは低所得者、病人、高齢者で、日の出前の暗い時間帯に出火したため、避難も難しかったという。死者の平均年齢は62歳だった。

出火に気づき、現場から逃げ去った女がその後拘束されたが、原因は、１階で使用後の蚊取り線香の火を消さずにごみ箱に捨てたところ、引火し、部屋にあったガスボンベも爆発したためと思われる。

なお、台湾で最も多くの死者を出した火災は、1995年２月台中市のレストランの火災で、漏れたガスに引火し、64人が死亡した。

２　イラクバクダッドで新型コロナウイルス感染症患者受け入れ病院火災

2021年４月25日イラクの首都バクダッドで、重症の新型コロナウイルス感染症患者を受け入れていた病院で火災が発生した。死者82人、負傷者110人、うち28人は人工呼吸器を装着していた患者だったという。

新型コロナウイルス感染症は、重症化すると、肺炎等を発症し、呼吸困難に陥り、酸素吸入が必要になることから、酸素ボンベを集中治療室と同じ階の倉庫に保管していたところ、その酸素ボンベが爆発し、火災を招いたという。病院には自動消火装置がなく、火災の拡大を止められなかった。なお、爆発で火災が発生した際、脱出するために酸素吸入器を外して犠牲になったとみられる人もいたという。

その3か月後の2021年7月12日夜、南東部ナシリアの新型コロナウイルス感染症病棟でも火災が発生した。死者少なくとも92人、負傷者約50人であった。

イラクは石油大国ながら、数十年にわたる紛争と資金不足により、病院などの医療インフラは老朽化が進んでおり、医薬品も病床も不足し、増え続ける新型コロナウイルス感染症患者に懸命に対応している中での悲劇であった。

3　インドネシアジャカルタ近郊で刑務所火災

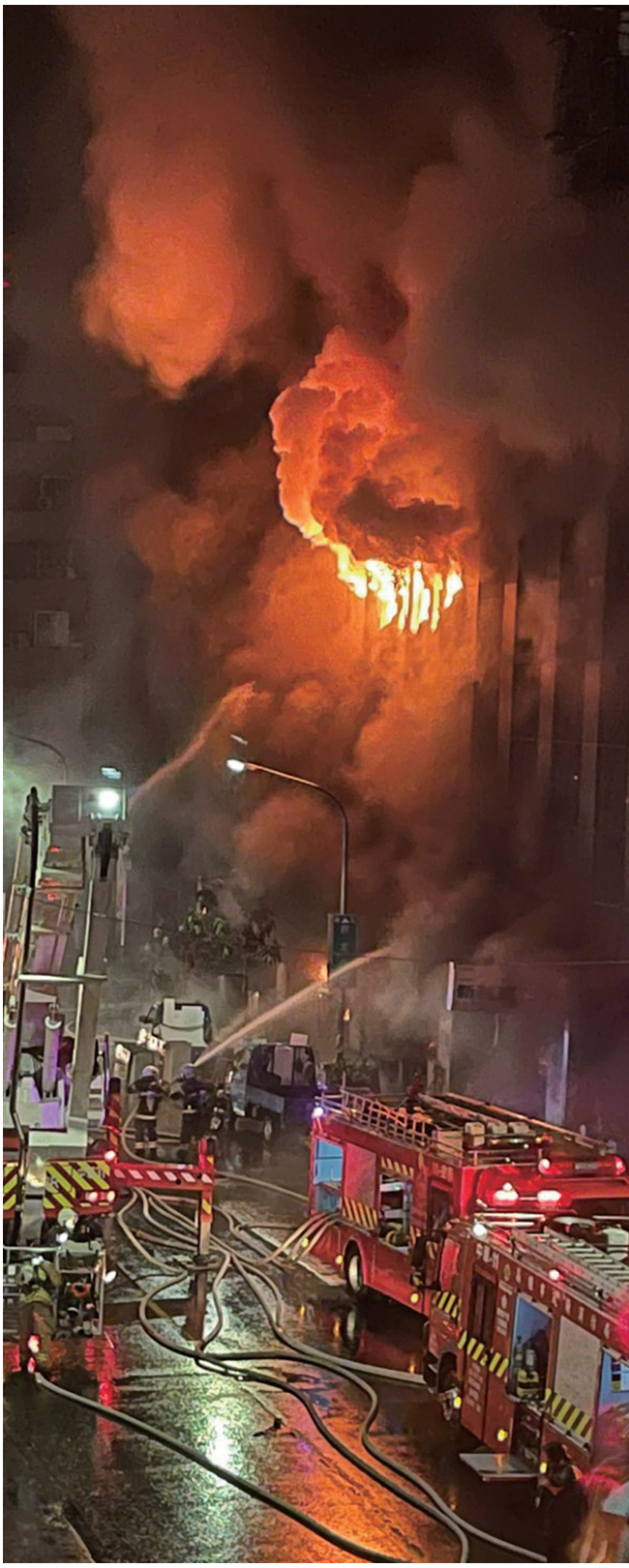
2021年9月8日現地時間午前1時45分頃、インドネシアの首都ジャカルタ近郊のバンデン州タンゲラン市にある刑務所内で、火災が発生した。職員が発見し、通報後12台の消防車が駆け付け1時間半かけて消火作業を行ったが、一区画が全焼した。この火災で、受刑者41人が死亡、81人が重軽傷を負った。

警察は電気配線のショートが原因になった可能性があるとしている。刑務所は1972年に建設されて以降、電気設備は更新されていなかった。

同区画には定員38人に対して122人が麻薬関連の罪で収監されており、それぞれの房には鍵がかかっていたという。

インドネシアの刑務所は収容者が定員を上回っていることで知られており、この刑務所全体でも600人の定員の3倍を上回る2,079人が収容されていた。インドネシア政府は、麻薬問題を重要課題として取り組み、厳しい取り締まりをしてきており、その結果、刑務所の収容者12万人中9万1,000人が麻薬関係の受刑者であるという（2016年9月法務人権省）。今回の火災で多くの死者を出した背景にはこのような事情があったといってよいだろう。

台湾高雄市における雑居ビル火災（写真：AP/アフロ）



4　バングラデシュでロヒンギャ難民キャンプ火災

2021年３月22日バングラデシュ南東部コックスバザールのロヒンギャ難民キャンプで火災が発生した。死者15人で、５万人近くの人が住む場所を失った。現場は隣国ミャンマーから軍の弾圧を逃れてきた100万人近いイスラム系少数民族ロヒンギャが暮らす世界最大の難民キャンプである。難民が使用していたコンロが火元で、調理用のガスボンベに次々に引火した可能性があるとの初期調査結果がある。

5　中国で大規模火災続発

2021年６月13日現地時間午前６時40分頃、中国湖北省十堰市の食品市場でガス爆発事故が発生した。死者25人、負傷者138人であった。食品市場は営業を開始しており、買い物や朝食のために訪れていた多くの人が巻き込まれたという。

また、６月25日未明、河南省の武術関連施設で火災が発生し、死者18人、負傷者10人以上であった。

6　パキスタンでバス爆発事故

2021年７月14日朝、パキスタン北西部カイバル・パクトゥンクワ州でバスが爆発し、死者少なくとも13人であった。中国の巨大経済圏一帯一路に関連するダスダムの建設現場に向かう関係者を乗せたバスで、中国人技術者９人が死者に含まれる。中国は襲撃事件との見方を示しが、パキスタン当局はガス漏れが原因の事故としている。

イラクバグダッドにおける病院火災（写真：AP/アフロ）

7　レバノンで燃料貯蔵施設が爆発

2021年８月15日レバノン北部で、燃料を貯蔵する施設が爆発し、死者22人、負傷者約80人であった。

レバノンは、昨年ベイルートで死者212人、負傷者6,500人以上の大規模爆発事故が起こり、総辞職した内閣はこの事故から一年以上経た９月まで組閣されず、政治的空白が続き、2019年以降の経済危機に拍車をかけていた状況下での事故であった。深刻な燃料不足の中、ガソリンを不正に貯蔵していた施設を前日の14日に軍が発見し、周辺住民への配給を命じていた。それを受け集まった住民が被害にあったという。

8　ロシアの爆薬工場で爆発事故

2021年10月22日ロシアの首都モスクワの南東300キロに位置するリャザニ州にある爆薬工場で爆発事故が発生した。死者少なくとも17人であった。工場での「技術工程と安全対策上の規則違反」が原因である可能性が指摘されている。

9　シエラレオネでタンクローリーが爆発事故

2021年11月５日夜、シエラレオネの首都フリータウンでタンクローリーとトラックが衝突し大爆発事故が起こり、死者98人以上、負傷者100人以上であった。

現場はスーパーマーケット付近の道路で、ガソリンスタンドに燃料を供給しようと進入してきたタンクローリーにトラックが衝突し、漏れた燃料を集める人々が集まりだし、渋滞で車両が動けなくなったときに爆発事故が起った。路上の車両、周辺の商店、屋台も炎上したという。死者には車両に閉じ込められた人も多かったという。

10　世界各地で大規模山林火災が頻発

⑴ロシア各地で山林火災

今年も、大規模な山林火災が世界中で起こっている。特に気温が低い永久凍土で、本来であれば燃えるはずのない北極圏のシベリアの山林で火災が多発している。昨年６月には、前代未聞の最高気温38度が記録され、ロシアで最も寒い地域のサハ共和国で山林火災が多発した。今年もサハ共和国とチュクチ自治管区では記録的な高温と干ばつに見舞われ、６月から８月にかけて山林火災が頻発した。

シベリアの6月の平均気温は1981年から2010年の平均を約10度上回ったという。ロシアの森林当局によると今年の山林火災による焼損面積は1,816万haに及び、21世紀に入って最大だという（因みに日本の国土の半分に相当する）。

NASAの衛星画像によると森林火災の煙が北極に到達しているという。

なお、消火活動にかかる費用が損失額を上回る場合や居住地に影響を及ぼさない場合には消火活動をしなくてもよいとする法律を根拠に火災を放置していたことが大規模化を招いたのではないかと批判する声もある。

⑵地中海諸国で山林火災

地中海諸国でも山林火災が頻発した。

トルコ南部沿岸地域のリゾート地アンタルヤで、７月28日に発生した山林火災は別の地域にも飛び火し、７日間で32以上の地域で132の山林火災が起きた。１週間以上続く山林火災について、大統領は8月４日「トルコ史上最悪の規模」と表現した。死者８人、負傷者1,100人以上であった。過去２週間の焼損面積は平年の３倍以上に相当するという。南西部ボドルムでは石炭火力発電所にも火が燃え移った。

ギリシャでは過去30年で最も深刻な熱波に襲われ、今夏気温が40度を超す日が相次ぎ、北部では47.1度を記録した。山林火災は586件に上り、首相は8月９日テレビ演説で、「未曽有の規模の自然災害」と表現した。約２週間で東京23区の1.6倍に相当する10万haが焼失した。

イタリアではルシファーと呼ばれる高気圧に覆われ、南部シチリア島では欧州観測史上最高気温とみられる48.8度を８月11日に記録した。一晩で528件の山林火災に対応したという。１週間続く山林火災は死者４人であった。

アルジェリアでも８月８日頃首都アルジェ東方のカビール地方などで50件以上の山林火災が発生し、死者少なくとも69人で、うち28人は消火活動に参加した兵士だったという。大統領は12日から３日間の国喪を宣言した。

⑶アメリカなどでの山林火災

今年もアメリカで大規模山林火災が起こった。カリフォルニア州で史上トップ20に入る山林火災が４つも起こった。その中でも最大だったのが史上２番目に大きな「ディクシーファイア」であった。７月13日に発生し、10月上旬までに39万haを焼損し、1,329の建物を破壊し、死者１名であった。

隣のオレゴン州でもブートレッグファイアが７月６日の落雷に端を発して起こり、同州ポートランド市の約4.4倍に相当する面積16.7万ha、東京23区の約2.6倍を焼きつくしている。

⑷異常気象が「新しい平常」に

世界各地の大規模山林火災の背景に、猛暑、記録的高温、乾燥が指摘される。もちろん山林管理の問題もあるのだろうけれども、火災発生危険度を高める気候の影響が、火災制御を困難にし、火災の拡大を招いていると思われる。記録的高温、乾燥という異常気象が山林火災の多発化、大規模化の背景にあるといってよいだろう。

他方「2021年世界の自然災害」で紹介しているように、世界各地で記録的な集中豪雨がおきて、土砂崩れや、洪水など大規模災害を世界各地で起こしているという事実がある。

猛暑や大洪水などの「異常気象はもはや新しい平常だ。」と述べたのは世界気象機関のペッテリ・ターラス事務局長である。

ここで紹介した山林火災は北半球のものであったが、年の後半は、南半球のオーストラリア、アマゾン、南アメリカなどの山林火災のシーズンである。新しい平常の中で、南半球の山林火災の状況を注視していきたい。

2021年世界の大規模火災（増補版）

「月刊フェスク」2022年１月号に掲載できなかった11月末以降の大規模火災をここでは紹介する。

１　ロシアの炭鉱火災

2021年11月25日午前８時30分頃ロシアシベリアのケメロヴォ州にあるリストヴァシュナヤ鉱山で大量の煙が発生し、死者51人、うち５人は救助隊員であった。坑内地下約250mで発生したメタンガスの爆発と火災で発生した煙が換気システムにより鉱山内に急速に充満したとみられている。

この鉱山では2004年のメタンガス爆発事故で13人の死者を出しており、この地域の他の鉱山では2007年に死者110人の爆発事故も起こっている。

２　ブルンジの刑務所火災

2021年12月７日午前４時頃、ブルンジの首都ギテガにある刑務所で火災が発生し、受刑者38人が死亡し69人が負傷した。多くの受刑者が寝ているときの火災で、収容定員400人を上回る1,500人以上が収容されていた。火災原因は電気のショートであった。この刑務所では本年８月にも電気ショートが原因の火災が発生していた。

３　ハイチでタンクローリーが爆発事故

2021年12月13日夜ハイチの第２都市カパイシアンで、オートバイタクシーを避けようとしたタンクローリーが横転し、漏れた燃料を集める人々が近寄り、爆発に巻き込まれた。死者少なくとも62人であった。

今年７月には大統領が暗殺され、８月には2,207人の死者を出した大地震が起こり、治安が悪化するなか、ギャング団がエネルギーの供給網を制圧しており、市民の間にガソリンが手に入りづらい状態が続いていた。

４　大阪北区のクリニックで放火事件

2021年12月17日午前10時20分頃大阪市北区の雑居ビルに入る心療内科クリニックで火災が発生、消防車44台が出動し、火は約30分で消し止められたが、死者25人であった。全員が一酸化中毒死とみられている。ガソリンの可能性がある油成分入りの液体が検出され、放火殺人事件として捜査が行われている。

1974年の改正建築基準法施行令で６階以上の建物には２か所以上の階段設置が義務づけられているが、この建物は改正以前に建てられたもので適用外であった。消防法上のスプリンクラー設置基準は延べ床面積300㎡以上となるため対象外であった。京都アニメーション放火事件後、ガソリンスタンドに、ガソリンの販売時には身元と使用目的を確認し、記録するように義務付けられたが、容疑者は「バイクに使う」と虚偽の説明をしていた。

総務省消防庁は、このビル火災を受け、全国の消防本部に対し、今回の建物と類似の階段が一つしか設置されていず、不特定多数が出入りする施設が３階以上に入居する全国約３万棟の雑居ビルを対象に、火災時の避難経路等について緊急立入検査の実施を要請した。

５　バングラデシュでフェリー火災

2021年12月２日午前３時頃、バングラデシュの首都ダッカの港を出発し、南に250㎞離れたジョルコタ付近を航行していたフェリーで火災が発生し、死者少なくとも37人以上、火災による死亡のほか、水に飛込み、水死した人もいるという。エンジン室からの出火が原因とみられている。

多くの河川が流れるデルタ地帯にあるバングラデシュでは、船が重要な交通手段であり、定員310人を超える少なくとも500人が乗っており、多くは首都からの帰省客だったという。